
西南支部ニュースレター（48号）

2018年11月12日

<内 容>

1. 2018年度支部例会開催のお知らせ
2. 2018年度支部総会開催のお知らせ
3. 2018年度支部役員

1. 2018年度支部例会開催のお知らせ

2018年度支部例会として、水産海洋学会と共催して、以下のとおり、九州沖縄地区合同シンポジウムを開催します。

2018年度 九州沖縄地区合同シンポジウム
(日本海洋学会西南支部・水産海洋学会合同シンポジウム)

「日本海研究の現状と今後について」

コンビーナー：柏野祐二（水大校），磯辺篤彦（九大），渡邊俊輝（山口水研センター）

日時：2018年12月10日（月） 10：40～17：10

場所：水産大学校 講義棟13番教室

<http://www.fish-u.ac.jp/daigaku/access/access.html>

<プログラム>

10:40 開会の挨拶

座長：千手智晴（九大応力研）

10:45～11:30 【基調講演】気候変動に伴う日本海の海洋環境変動に関する研究

○荒巻能史（環境研）

11:30～11:50 日本海盆北東部における日本海固有水の近年の貧酸素化

○中野俊也・笹野大輔・北川隆洋・永井直樹・北村佳照（気象庁）・青山道夫（JAMSTEC/福島大）・石井雅男（気象研究所）

11:50～12:10 Simulation of DO concentration using a coupled physical-biogeochemical model in the Japan Sea

○Haejin KIM・高山勝己・広瀬直毅（九大応力研）・吉田尚郁（環日本海環境協力センター）

—昼休み（日本海洋学会西南支部総会）—

座長：広瀬直毅（九大応力研）

13:10～13:55 【基調講演】日本海と大気の連鎖的双方作用とモンスーン変調

○立花義裕（三重大）

- 13:55~14:15 60km-AGCMでの日本海側降雪におけるSST解像度の影響
○尾形友道(JAMSTEC-APL)
- 14:15~14:35 日本海盆東部における深層流の弱化について
○千手智晴(九大応力研)
- 14:35~14:55 富山トラフにおける対馬暖流流路の季節変動
○井桁庸介・久賀みづき(水研機構日水研)・広瀬直毅(九大応力研)

座長： 滝川哲太郎(長崎大)

- 15:10~15:30 沿岸水位差から推定した山口県見島周辺海域を通過する対馬暖流沿岸分枝の流量変動
○橋本涼介・滝川哲太郎(長崎大院水産・環境)・渡邊俊輝(山口県水産研究セ)・千手智晴(九大応力研)・森本昭彦(愛媛大沿岸セ)
- 15:30~15:50 山口県山陰沿岸定線ADCPデータによる潮流と平均流の推定
○都倉雄太・滝川哲太郎(長崎大院水産・環境)・森本昭彦(愛媛大沿岸セ)・鎌野忠・秦一浩(水研機構水大校)
- 15:50~16:10 西部山陰沿岸におけるマアジの漁場予測
○渡邊俊輝(山口水研セ)・謝旭暉(JAFIC)・種子田雄(水研機構西水研)
- 16:10~16:30 水産大学校で実施している日本海のマグロ属魚類の調査実習について
○田上英明・毛利雅彦・高橋洋・酒井健一・秦一浩・鎌野忠・下川伸也(水研機構水大校)
- 16:30~16:50 日本海の水産資源・海洋調査への期待
○中田薫(水研機構水大校)

総合討論 16:50~17:05

閉会の挨拶 17:05

【開催趣旨】

日本海はその北部で深層水(日本海固有水)が形成されていることから、海洋大循環の縮図として「ミニ大洋」と称されているが、そのサイズが全世界の海洋よりはるかに小さいことから、地球温暖化の影響がその循環に現れやすいと考えられている。実際、その日本海の深層において近年水温上昇と低酸素化が進んでいる、すなわち日本海の熱塩循環に異変が生じていることが、東京大学や気象庁他の観測により示されている。

また、日本海では冬においてユーラシア大陸からの季節風に対馬暖流から大量の熱・水蒸気が供給されている。特に2018年冬は北陸で大雪となったが、その原因には日本海上で季節風が収束する日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が北陸に停滞したことが示唆されている。

日本海の入口になる対馬海峡から西部山陰に至る海域は、マアジやマサバといった浮魚類の代表的な漁場であり、大和堆もスルメイカなどの好漁場であることが古くから知られており、日本海は水産業としてのポテンシャルが高い。また近年、クロマグロの産卵場が隠岐諸島から能登半島で確認され、日本の漁業にとっても重要な海域となっている。

以上に記した通り、日本海は我が国の気候や水産にとって重要な位置づけを占めている。このため日本海の研究は古くから行われており、特に1990年代以降にCREAMS(Circulation Research of East Asian Marginal Seas)などの研究が行われたことにより、多くのことがわかってきた。しかしながら、近年さまざまな問題により観測が(特に北部で)難しくなりつつあり、今後日本海研究を進めるうえで障害になっている。

このような背景を鑑みて、本シンポジウムでは、現在行われている日本海研究を総括し、そして今後どのような研究を行うべきかを議論することを目的とする。ただし、日本海に限定したテーマのみではなく、日本海に影響を及ぼすような海域・現象についても広くテーマを募集することで、より広い観点から日本海研究について議論できることを期待している。

問い合わせ先：

〒759-6613 山口県下関市永田本町2-7-1 水産大学校海洋生産管理学科

柏野 祐二

電話：083-227-3882

E-mail: kashinoy@fish-u.ac.jp

2. 2018年度支部総会開催のお知らせ

以下の予定で2018年度の西南支部総会を開催いたしますので、参加くださいますようお願いいたします。

1. 開催場所 水産大学校 本館1階会議室
2. 開催日時 2018年12月10日(月) 12:10~13:10(合同シンポジウムの昼食時)
3. 報告
1) 2018年度事業報告 2) 会計報告 3) その他
4. 議題
1) 2019年度支部役員 2) 2019年度事業計画 3) その他

3. 2018年度支部役員(支部長, 副支部長, 幹事)

支部長: 松野 健 (九州大学)
副支部長: 山城 徹 (鹿児島大学)
事務担当幹事: 広瀬 直毅 (九州大学)
水産海洋学会担当幹事: 滝川 哲太郎 (長崎大学)
平成29年度例会担当幹事: 柏野 祐二 (水産大学校)

後記

実は、この西南支部の会員は300人にも達します。会費無し(基本的に総会での有志のカンパだけで運営)なので、一度でも西南シンポジウムに参加したことのある方は、海洋学会や水産海洋学会の会員でなくとも、ずっと西南支部のメンバーなのです。

ところが、個人情報の厳密な管理を問われる時代になってきました。昨年の総会で会員情報の取り扱いを大きく変更し、e-mail addressのみを残して他の個別情報(住所や電話番号など)を全て抹消することとしました。つまり、個人宛てニュースレターの配信は、郵送ではなくe-mailとなります。(主要機関宛てのみ郵送を続けます。) さらに個別のe-mail addressにつきましても、不達が続くときは消去されます。

しかしながら、西南支部シンポジウムが有料化されるとか、閉鎖的になるということはありません。一度でも参加した経験のある方は西南支部メンバーであり続けます。相変わらずオープンで自由に海を語ることのできる場として年末にシンポジウムを主催しています。概ね11月初旬~中旬には、新しいニュースレターを西南支部ホームページに掲載します。

「そういえば、あのミーティングはまだやってるのかな? 今年はどこでやるのかな?」と思いつきましたら、「西南支部」「海洋」のようなキーワードで西南支部のウェブサイトを覗いてみてください。

(事務局: 広瀬直毅)

本ニュースレターに関するご意見や投稿したい情報等がありましたら、下記へお知らせ下さい。

日本海洋学会西南支部事務局
九州大学 応用力学研究所 大気海洋環境研究センター (広瀬直毅)
〒816-8580 春日市春日公園6-1
電話: 092-583-7492 Fax: 092-583-7492
E-mail: hirose@riam.kyushu-u.ac.jp

日本海洋学会西南支部ホームページ
<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/oed/swb/swb.html>